滋賀県における縄文時代早期後葉～前期前葉遺跡の集成

小 島 孝 修

目次

１．はじめに
２．集成の方法
３．集成した遺跡の様相
４．滋賀県における縄文時代早期末～前期初頭
５．おわりに

― 論 文 要 旨 ―

2021 年に開催された関西縄文文化研究会大会は、「本州西部の縄文早期末前期初頭土器編年」をテーマとしたが、コロナ禍のためオンラインでの開催となり、各府県集成の作成・刊行が見送られた。本稿ではこれを契機として、滋賀県における当該期を含む縄文時代早期後葉～前期前葉の遺跡を集成し、その様相を概観した。集成した 33 遺跡の多くが琵琶湖岸に立地し、とくに３つの地域で集中して分布する状況が再確認できた。さらに、当該期の土器様相の流れを俯瞰したうえで、とくに問題となっている縄文時代早期末～前期初頭においてみられる、いわゆる一乗寺南地点下層資料に類似する資料を集成した。

キーワード
縄文時代早期末～前期初頭　条痕文系土器　東海条痕文系土器　粟津 SZ1 群土器　一乗寺南地点下層資料